



K 中 通 信

学校だより 13号
令和2年3月13日
横浜市立軽井沢中学校

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

【学校教育目標】 『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます（知・徳・公）
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます（体・開）

去る3月11日（水）、令和元年度 横浜市立軽井沢中学校 第58回卒業証書授与式が挙行されました。今年度は様々な変更点がありましたが、みなさまのご協力によりつつがなく実施できましたことを御礼申し上げます。

式中の「学校長のことば」「PTA会長 お祝いのことば」「生徒代表 門出のことば」をご紹介します、第13号のK中通信とします。1年間、お世話になりました。

○学校長のことば

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。軽井沢中学校の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

今、みなさんを前にして共に過ごした3年間の思い出します。しっかり相手の目を見て挨拶ができる新入生であったこと。仲間を大切にし、団結力をもった集団に成長したこと。学習にも行事にも全力で取り組み、積み重ねた実績が自信となったこと。なによりみなさんは下級生をしっかりリードし、誰もが安心して生活できる学校を創りあげました。

みなさんが一年生の後半から大切にしていた学年八か条の

第一条 「人のせいにするべからず」

第八条 「常に他人からの慈悲を求めず、ある程度の自立をするべし」

ここで表されている自己責任の潔さや「自分で考え、行動する」という意気込みは、軽井沢中の先輩たちが大切にしてきた伝統であり、みなさんの姿を通じて在校生にもしっかりと伝わっています。

さて、ここで少し話を変えます。

今年の卒業式は、多くの人々の健康や安全を考え行われた、臨時休業中での開催となりました。私もまったく経験したことのない事態です。人の行き来や物流で、国境や壁がなくなった現代社会では、このようにある地域での出来事があつという間に全世界に影響を与えます。その影響は今までの知識や経験では予測不可能であり、まさしく「Tomorrow never knows」と言えるでしょう。

しかし、みなさんはこのような現代社会を生き抜き、やがて未来を創る存在です。困難に直面したときに、自ら解決に向けて行動しなければなりません。その行動のよりどころは、みなさんの学びの中にあります。

『「困難は分割せよ」焦ってはなりません。問題を細かく割って一つ一つ地道に片付けて行くのです。』

これはみなさんが国語の授業で学んだ「握手」の一節です。

みなさんは、様々な「困難を分割する」場面に出会いました。中学校最後の合唱コンクールでは「最高の合唱を作り上げる」という困難な課題を「正確な音程やリズムで歌う」「豊かな曲想を持つ」「気持ち合いを合わせる」などの自分ができる小さな課題に分割し、一つ一つ地道に片付け、どのクラスも素晴らしい合唱を作り上げました。進路決定という困難な課題も、みなさんは実現可能な小さい課題に分割し、一つずつ丁寧に取り組むことで克服しました。きっとみなさんの義務教育9年間は、「困難を分割する」連続であったのでしょうか。

将来、大きな困難に直面し、分割した課題を片付けることができないとしたら、それは分割の仕方がまだ大きすぎるのです。さらに小さく実現可能な大きさに分割し、正しい方法で、順序立てて計画的に、そして見落とすことなく一つずつ片付けていけば、やがて困難は消え去ることでしょう。「Tomorrow never knows」予測不可能なことを不安と感じるのか、新しい本と出合ったときのようにワクワクするのか。願わくば後者であってほしいと私は思います。

最後になりますが、卒業生の皆さんの心身の健康と、洋々たる前途を祈念して学校長の式辞とします。

○お祝いのことば

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本来であれば、たくさんした後輩たちやご両親、来賓の方々を迎え盛大に卒業式を執り行うはずでしたが、新型コロナウイルス拡散防止の観点から、このような形式になってしまった事を残念に思います。しかし、大人になってから振り返った時に、逆に非常に印象に残る卒業式になるかもしれませんね。

この軽井沢中学校で共に学び、協力し合いながら合唱コンクールや体育祭などの諸行事に一生懸命取り組んできたことは、皆さんにとってかけがえのない経験となり、皆さんを大きく成長させた事でしょう。3年前の入学式ではまだまだ子供らしさが目立っていましたが、今ではすっかり落ち着いて、自信に満ち溢れて見えます。

私の好きな言葉の一つに「難局とは乗り越えるもの」というのがあります。これは、日本人で初めて国連難民高等弁務官となった、緒方貞子さんの言葉です。人は困難や面倒な事に直面した時、如何にそれを避けて通るか考えがちです。もし他の誰かが代わりにやってくれたら、「助かった」と喜ぶ事でしょう。しかし、人は困難を一つ一つ乗り越えていくことで経験を積み成長します。その時は「面倒を避けられて良かった」と思うかもしれませんが、時が経ち親の世代になったときに、面倒な事から逃げ続けてきた人と、一つずつ乗り越えてきた人では人間的に大きな差が出る事となるでしょう。

殆どのみなさんは、宮ヶ谷小学校から9年間、同じ仲間にくまれて生活を送ってきました。しかしこれからはそれぞれが違う道を歩んで行きます。高校生活では今よりもっと大きな困難や苦難が待ち受けているかもしれません。そんな時にはこの言葉を思い出して、積極的に困難に立ち向かって行ってほしいと思います。そして、一人では挫折そうになった時には、周りを見渡してみてください。必ずあなたを見守り、助けとなってくれる人がいるはずです。それは、軽井沢中学校で共に学んだ仲間かもしれませんし、熱心に指導してくれた先生方やご家族の方かもしれません。

最後となりましたが、校長先生をはじめ先生方には本当にお世話になりました。子供たちを叱咤激励し正しく導いて下さった先生方のご努力に、深く感謝申し上げます。

今後の皆さんの健やかな成長を祈りつつ、挨拶とさせていただきます。

令和2年3月11日 PTA 会長 黒崎真由子

○卒業生代表 門出のことば

肌を刺すような冷たい外気がいつの間にか和らぎ、吹く風にも春のおとずれを感じるようになりました。私たちは今日、最後の登校日を終え、軽井沢中学校を卒業します。今日という日は中学校の教育課程をすべて終えた特別な日です。そして私たちにとって一つの区切りの日でもあります。

1年前に卒業式で井上先輩が話した後、友達からたくさん期待の言葉をかけてもらいました。「来年は野口が話すんだね。」「絶対泣いちゃうよ。」そんな言葉を聞くと「そうか、来年は自分の番なんだ。」と意気込み、この日に思いをはせ、想像を膨らませました。けれど今、ここからは1年前に想像していた景色とはまた違ったものが見えます。この時間を見届けて欲しかった人全員が体育館に揃うことはできませんでした。登校するはずだった残りの7日間をみんなと過ごすこともできませんでした。それでも今日が最後です。だから精一杯、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

この門出の言葉という文章を書くにあたって、自分の歩んできた3年間を振り返りました。正直、どの思い出も鮮明に覚えられている。なんてことはなくて、思い返される記憶は断片的なものばかりでした。それでも1番最初に感じたの「私はこの場所と、この学年が大好きだったな。」ということです。曖昧な記憶の中にも確かに残っているみんなの思いやりや優しさによって生まれた感情だと思っています。

体育祭や合唱祭では毎年、各クラスが一丸となり、良い結果を残そうと努力してきました。時には行事に懸ける気持ちの差でぶつかり合うこともありました。思い返してみれば続べたが楽に進んだことなど無かったな。と思います。何度も壁にぶつかりながら、それでも最後にはお互いを励まし合い、一つの目標に向かって進んでいきました。いろいろな行事に出せる力の全てを注いできたことも私たちらしさだと思います。

そして、何よりいつも私が感銘を受けていたのは「行事が終わった後」です。体育祭でも合唱祭でも最後には順位や結果がつきものです。また、その結果がもたらす悔しさという感情は、懸けた思いに比

例します。一生懸命やってきたからこそ、優勝したクラスをうらやましく思ったり、さらに言うなら僻みに似た感情を覚えることもあったと思います。それでも思い返される記憶の中にはそのような言葉を口に出しているみんなの姿はありません。

2年生の合唱祭。どのクラスも難易度の高い曲を選び、ハイレベルなコンクールになりました。難しい曲だったからこそ、練習が大変だったと思います。結果的に私のいたクラスが優勝しましたが、終わった後すぐに他のクラスの友達から「かっこよかった。おめでとう。」という言葉をかけてもらいました。そのときは、あまり深く考えず「ありがとうね。」と返事をしました。今振り返ってみると、負けて気分が落ち込んでいるときに、そのような言葉をかけてくれた友達は凄いなと感じました。彼女の何気ない優しさがとても嬉しくて、今でも私にとって忘れられない大切な思い出です。今回の合唱祭は最後ということもあり、どのクラスも熱が入って、前回に引き続きレベルの高いコンクールになりました。特に全体合唱の『大地讃頌』の美しさは言葉では言い表し難いほどの感動を感じました。改めて合唱の素晴らしさと、この学年の歌声が生み出す力を感じました。結果として私たちのクラスは最優秀賞をとることができませんでした。それでも、教室に帰って聞こえてきたのは「やりきったよ。」「楽しかった。」という明るい言葉でした。2組の友達に「おめでとう。」という言葉をかけている人も多くいました。

これからの行動を「当たり前だ。」と思う人がいると思います。私もそう思います。けれど、冷静に見つめれば、そこにはみんなの温かい思いやりがあって、それを当たり前のもので築き上げてきたことが、私たちの何よりの財産なのだと感じます。そんな学年を一緒に作り上げてくれたみんなには感謝の気持ちしかありません。本当にありがとう。

また、私は中学校の大半を共に過ごした部活動の仲間のあたたかさに幾度となく救われました。私はバスケット部に所属していましたが、本当の言葉を言うとバスケットボールというスポーツを中心として部活動に取り組めたことは少なかったです。自分が守りたかったのはいつだって明るくて、辛いことがあっても気が付けば笑うことのできるあの空間・居場所でした。自分はひたすらにそんな理由で部活を続けるべきなのかと考え、長い時間思い悩みましたが、バスケット部のみんなは、そんな不純な理由さえ認めて笑い飛ばしてくれました。そして気づくと、いつも明るい気持ちになれていました。部活動を最後まで続けられたのは仲間のおかげです。そして、おの最高の仲は一生をかけて守っていききたい宝物です。ありがとう。

そして先生方にも伝えたい感謝があります。みなさんはいつだって、私たちの一番頼れる存在でいてくださいました。進路で悩んでいる時には担任の先生はもちろん、学年の多くの先生からそっと背中を押してくれるような、あたたかい言葉をかけていただきました。その言葉の一つひとつが自分の選んだ道を認めてくれているようで心強かったです。先生方は勉強面でもいつも親身になってくださいました。杉山先生の音楽の授業も、蟬山先生の数学の授業も、佐々木先生の国語の授業も、生沼先生の英語の授業も、若林先生の美術の授業も、もう受けることがないのかと思うと寂しいです。先生方のおかげで自分の進むべき道を切り開くことができました。本当にありがとうございました。またいつか立派な姿を見せられるよう、頑張っていきます。

また、こんなにも素晴らしく安心した学校生活を送れたのは地域の方からの温かい見守りがあったからです。私たちが1日の授業を終えた後、ボランティアで校内を見回ってくれている方がいることを知っていますか。私は部活のトレーニングをしているとき、軽中に入っていく1人の男性を何度も見かけました。始めは「どうしていつも学校に来ているんだろう。」と思っていました。そしてある日、母に尋ねるとその男性は学校の見回りをしてくださっている方だと分かりました。きっと、このことを3年間知らずに過ごした人もいないのでしょうか。私たちが当たり前の生活を送っている中には地域の方々の何気ない優しさがあったからだだと思います。感謝の気持ちを伝えられる機会は多くはなかったですが、本当に感謝していました。いつもありがとうございました。

在校生のみんな。みんなには地域の方のみならず、周りの多くの人々に「この学校に協力したい。」と思ってもらえるような軽井沢中学校を築いてほしいです。そんな学校をこれからも守り続けていけばきっと1年生のみんなは2年後、2年生のみんなは来年のこの卒業式という日に、きっと恵まれた環境で旅立ちを迎える機会を作ってもらえるはずですよ。

そして何より、今回の卒業式をこのような形で行うことになったからこそ伝えたいことがあります。それはなるべく悔いを残さないでほしいということです。未来は予測不能です。良い方向に転じること

も、悪い方向に転じてしまうことも誰にも分かりません。

本当は一日一日を悔いなく過ごしてください。と言いたいところですが、自分の経験上、安易にそうは言えません。やりたいことがあってもそれを我慢して勉強や部活動を頑張っていた自分が記憶の中にいるからです。だからこそ「なるべく」です。できる限り、「なるべく」の意識を持って、日々の生活にありがたみを感じてください。みんなのこれからの中学校生活、そして旅立ちが良いものになるよう願っています。

最後に、体育館には参列していないけれど、テレビを通して式の様子を見届けてくれている保護者の皆さん。きっと、この3年間で誰よりぶつかった存在です。誰より傷つけてしまった存在です。

喧嘩をした次の日の朝、おはようも返さず、いってきますも言わずに、勢いよく玄関のドアを閉めて学校に向かった日。それでも昼食の時間には、いつもと変わらないお弁当が用意されていて、そんなときには母の優しさを感じました。また、どれだけ頑張っても早く起きようとしてみても、いつも私が起きる頃には家を出て、遠くの会社まで勤める父の姿を見るたびに家族のために働いてくれていることへのありがたさを感じました。

普段から私たちはずっと家族に支えられて生活しています。生まれてから何もできなかった私たちがここまで成長できたのは間違いなく家族のおかげです。忘れてしまったり、気づいていても伝えることができない感謝の気持ち。今日、この卒業式を一緒に空間で過ごすことは叶わなかったけれど、一人ひとりがここまで育ててもらったことへの感謝の気持ちとこれからもお願いします。という気持ちを誠意をもって伝える必要があります。きっと、今日を逃してしまえば伝えることが恥ずかしくなってしまうような気がします。だから、どうかみんなには特別な日の力を借りて伝えてほしいと思います。

幸せで恵まれた3年間だったと感じます。最高の学年で過ごすことができ、寄り添ってくれる先生方がいて、一生大切にしていきたい友達ことができました。そんな大好きな場所を去るのは名残惜しいことです。しかし、4月からは全く違う環境で新しい生活を送っていくことになります。小学校から、もしくはそれ以前から一緒に過ごしてきた私たちが、新しい友人関係を築いていくのは小学校の入学式以来です。不安はありませんか。私はとても不安です。でもきっと、不安になったらみんなのことを思い出します。みんなのような温かい学年を高校でも作れるよう、頑張ろうと思います。

ここまでたくさん話をしてきましたが、私の伝えたいこと全てを伝えきることはできなかったと思います。私たちの大切にしていたものは、日々の温かいふれあいの中に確かにありました。そんな毎日の時間は最後に短くなってしまいました。でも、今回の事から学びもあったはず。学校ではなく、長い時間家にいることで「会いたいな。」と思える友達への気持ち。卒業式をより良い形で実現しようと動いてくださった先生方への感謝の気持ち。毎日学校へ行けること。親に送り出してもらえることのありがたさ。つらい状況に置かれたからこそ気づけることがたくさんありました。

今回の事を乗り越えられた私たちには明るい未来が待っていると信じています。それぞれが決めた道に胸を張って力強く歩んでいきましょう。時には周りの人に感謝を伝え、自分の信じる未来に向かって真っ直ぐ進んでいきましょう。

多くのことを学んだ幸せな3年間でした。本当にありがとうございました。またいつか会える日を楽しみにこの場所を旅立ちます。またね、みんな。

令和元年度 横浜市立軽井沢中学校生徒会長 野口杏莉

四月の行事予定については、確定し次第お知らせいたします。